

Weekly report



株式会社 ミンカブ・ジ・インフォノイド
東京都港区東新橋1-9-1

為替週間展望＝ドル円は年末年始で様子見ムードの強い動きか

〔12月29日からの1週間の展望〕

週間高低（カッコ内は日）					12月22日～12月26日
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	157.70	157.75(22)	155.56(24)	156.28	-1.47
ユーロ・ドル	1.1713	1.1808(24)	1.1706(22)	1.1776	+0.0066
=====					
国内株・金利／米国株・金利					
	終値		前週末比		終値 前週末比
日経平均株価	50,750.39	+1243.18	日本10年債利回り	2.041	+0.017
ダウ平均株価	48,731.16	+596.27	米10年債利回り	4.134	-0.029
=====					
<来週の主要経済統計等>					
29日 日銀金融政策決定会合における主な意見（12月18～19日分）					
米11月中古住宅販売成約指数					
30日 ◆大納会					
スイス12月KOF先行指数					
米10月住宅価格指数					
米10月S&Pケースシャー住宅価格指数					
米12月シカゴ購買部協会景気指数					
米連邦公開市場委員会（FOMC）議事要旨（12月9～10日分）					
31日 中国12月製造業・サービス業PMI					
中国12月レイトイングドッグ製造業PMI					
米新規失業保険申請件数					
2日 英12月ネーションワイド住宅価格					
独12月製造業PMI確報値					
ユーロ圏12月製造業PMI確報値					
英12月製造業PMI確報値					
米12月製造業PMI確報値					
米11月建設支出					

【前回のレビュー】日銀は利上げに動いたものの、円高をけん制するような動きとはなっていない。こうした中、クリスマス休暇や年末年始で方向性の出にくい状況となり、ドル円は米経済指標の動向などに左右されながら一進一退の動きを見せることになることとした。

【円安けん制発言を受けてドル円は上昇一服】

18～19日の日銀金融政策決定会合で予想通り0.25%の利上げが決定した。これに関しては大方の予想通りで織り込まれていた。その後の植田日銀総裁の記者会見がハト派的と受け止められて、ドル円は157.70台までドル買い円売りが進行した。前日と比べて2円以上の円安水準となった。

植田総裁は記者会見で、中立金利について「推計は難しい」などと述べて、利上げのペースや水準を示さなかった。さらに利上げ後も緩和的な環境が続くなどと述べて、投機筋の円売りを誘う結果となった。これまでの発言にも見られた通り、円安をけん制して抑止するという意思が感じられない発言となった。

その後は片山財務相の発言で介入警戒感から上値を抑えられた。22日の夜に片山財務相が、「為替の過度で無秩序な変動に対し、断固として措置を取る用意がある」として、市場介入も辞さない姿勢を示したことから、ドル円は156円台に急速に下落する

場面が見られた。片山財務相は、日銀会合後の植田日銀総裁の会見の後に進んだ円安について、「非常に短い時間での動き。完全にファンダメンタルズではなくて投機だ。為替介入も含めた行動を取れるということは日米財務相間の合意事項でもあり、フリーハンドがあるということだ」と説明している。

片山財務相は23日の閣議後の記者会見でも、最近の円安についての動きについて、「ファンダメンタルズ（経済の基礎的条件）を反映しているとは到底思えない。投機的と言ってよい動きだ」「行き過ぎた動きに対しては対応を取る」と述べ、市場の動きをけん制した。為替介入の可能性については、「私はフリーハンドだ」と強調した。片山財務相の円安けん制発言が繰り返されたことで、ドル円は24日の昼前に155円台半ばまでドル安円高に振れた。

ただ、その後はクリスマスモードで市場の値動きは乏しく、方向感のない展開を見せている。おおむね155円台半ばから156円台前半の狭いレンジでのみみ合いとなっている。

日銀の植田和男総裁は25日の講演で、「経済・物価の改善に応じて引き続き政策金利を引き上げ、金融緩和の度合いを調整していく」と利上げを継続する方針を示した。賃上げに関しては、「来年は今年に続き、しっかりと賃上げが実施される可能性が高く、企業の積極的な賃金設定行動が途切れるリスクは低い」とした。なお、発言内容には新鮮味が乏しいとの見方から影響は限定的だった。

【元旦を挟んで年末年始の様子見ムードで小動きか】

12月29日の週に予定される日米の経済指標やイベントは、29日に日銀金融政策決定会合における主な意見（12月18～19日分）、米11月中古住宅販売成約指数、30日に米10月住宅価格指数、米10月S&Pケースシャー住宅価格指数、米12月シカゴ購買部協会景気指数、米連邦公開市場委員会（FOMC）議事要旨（12月9～10日分）、31日に米新規失業保険申請件数、2日に米12月製造業PMI確報値、米11月建設支出などがある。

29日には今月利上げに動いた日銀会合の主な意見が公表される。今後の日銀の利上げスタンスを知る上でのヒントがあれば、ドル円は上下に動く可能性がある。12月のFOMC議事要旨も公表される。今月利下げに動いており、今後の利下げペースなどのヒントが得られるかが注目される。

12月29日の週は、クリスマス休暇後に1月1日の元旦を挟んで年末年始の様子見ムードで積極的な仕掛けを控えるような展開となりそうだ。最近のレンジ内でのみみ合いが中心になるとみられる。目先の予想レンジは155.00～157.50円となる。

※米政府機関再開に伴い米経済指標の発表日に変更・追加される可能性がある。

【ユーロドルは堅調な推移か】

29日の週はドイツやユーロ圏の経済指標の発表は少なめとなる。ユーロドルは週の前半にドル売りの動きに支えられて、1.18台まで上値を伸ばした。その後はクリスマスモードに入り、小幅な値動きを見せている。22日に5日移動平均線を上抜いた後は底堅い動きを見せており、堅調な流れが続くとみられる。ユーロドルの目先の予想レンジは、1.1700～1.1950ドル。

ポンドドルは堅調な流れを見せている。ドル安を背景に22日に1.34ドルを突破して、23日には1.35台前半まで上値を伸ばした。24日以降はクリスマスモードで小幅な値動きとなっている。底堅い動きを続けて、緩やかに上値を追う展開が見込まれる。目先の予想レンジは1.3350～1.3600ドル。

今後の日米以外の経済指標としては、30日にスイス12月KOF先行指数、31日に中国12月製造業・サービス業PMI、中国12月レイトイングドッグ製造業PMI、2日に英12月ネーションワイド住宅価格、独12月製造業PMI確報値、ユーロ圏12月製造業PMI確報値、英12月製造業PMI確報値などが予定されている。

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。